

全国月間火山概況（平成 24 年 8 月）

霧島山（新燃岳）では、今期間、噴火は発生しませんでした。30 日 14 時頃から 17 時頃にかけて、新燃岳付近を震源とする振幅のやや大きな火山性地震が一時的に増加しましたが、火山活動に特段の変化はみられませんでした。新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011 年 12 月頃から鈍化し、2012 年 1 月以降ほぼ停滞していましたが、一部の基線では 5 月頃からわずかに縮みの傾向がみられます。以上のように、新燃岳の北西数 km の地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止し、新燃岳浅部の活動も低下しています。しかし、火口には高温の溶岩が溜まっており、現在でも小規模な噴火が発生する可能性は否定できません。新燃岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。火口周辺警戒（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

桜島では、爆発的噴火を含む活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警戒（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、やや多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警戒（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

青ヶ島では、海上保安庁が 26 日に実施した上空からの観測で、これまで変色水の見られなかった島の南東沖等で変色水が確認されました。このことから、29 日に火山現象に関する海上警戒を発表しました。変色水が確認された周辺海域には近付かないようにして下さい。地震活動や地殻変動には特段の変化は観測されておらず、島内で噴火が発生する兆候は認められません。噴火予報（平常）が継続しています。

択捉焼山では、25 日 07 時 00 分の気象衛星画像で海拔約 4000m の噴煙を観測しました。これに伴い、25 日 10 時 06 分に航空路火山灰情報を発表しました。この噴火以降、気象衛星画像で噴煙は観測されていません。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

9 月 9 日現在の各火山の噴火警戒及び噴火予報等の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 9 月 9 日現在の噴火警戒及び噴火予報等の発表状況

警戒・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警戒	レベル 3（入山規制）	霧島山(新燃岳)、桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※
噴火警戒(周辺海域)	周辺海域警戒	福德岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、新湯焼山、焼岳、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢)、口永良部島、
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、アトサヌプリ、雄阿寒岳、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカダナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島※、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孺婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

※印を付した火山は火山現象に関する海上警戒も発表中。



図1 噴火警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上100～300mで経過しました。16日及び29日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたりそれぞれ800トン、1000トン(前月7月17日及び19日、それぞれ1000トン、900トン)で、やや多量の火山ガス放出が続いています。三宅村によると、山麓では時々やや高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

全磁力連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

火山性地震はやや少ない状態です。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

GPS連続観測によると、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続しています。島の南北を挟む基線では、2006年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

青ヶ島 【噴火予報(平常) 及び火山現象に関する海上警報】

海上保安庁が26日に実施した上空からの観測によると、これまで変色水の見られなかった島の南端から南東方向約1300m付近(水深63m)に、直径約900m程度の円形の薄緑色の変色水が確認されました。また、以前から小規模な変色水が確認されていた島の北端の海岸付近に多量の薄茶色褐色及び薄緑色の変色水、島の南東端東側の海岸付近に薄茶褐色及び薄緑色の変色水が確認されました。このことから、29日に火山現象に関する海上警報を発表しました。変色水が確認された周辺海域には近付かないようにしてください。

手取山(丸山の北北西約1km)に設置してある遠望カメラによる観測では、丸山西斜面に噴気は認め

られませんでした。また、青ヶ島付近を震源とする火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。GPS 連続観測でも、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

地震活動や地殻変動には特段の変化は観測されておらず、島内で噴火が発生する兆候は認められません。

硫黄島 [火口周辺警報(火口周辺危険) 及び火山現象に関する海上警報]

国土地理院の地殻変動観測では、今期間、地殻変動はほぼ停滞しています。今期間、火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動(調和型・単色型)は、9日以降ほぼ毎日観測しており、17日には23回とやや多く観測しています。継続時間は30秒程度から5分程度のものがほとんどでしたが、最も継続時間が長いものは約16分30秒で、17日に観測しました。これらの火山性微動を観測した時間帯に、火山性地震の増加や空振、表面現象は認められませんでした。

阿蘇台東(阿蘇台陥没孔の東北東約900m)に設置してある遠望カメラでは、島西部の阿蘇台陥没孔からの噴気は少ない状態で、噴気の高さは10～70mで経過しました。また、島北西部の井戸ヶ浜では、噴気は認められませんでした。

海上自衛隊の協力により、7日から10日にかけて以下の地域で現地調査を実施しました。

- ・**島北部(為八海岸)の状況**：前回(2012年5月)の現地調査で、為八海岸付近の崖で新たな崩落がみつき、崩落部(噴気孔から噴気が上がっていることを確認しています。今回行った「噴気孔1」の調査では、崩落現場の地形や噴気の量にも特段の変化は認められませんでした。噴気の勢いは比較的強い様子でした。また、この崩落個所から離れた海岸付近で、新たな噴気箇所(噴気孔2)を確認しました。「噴気孔2」の噴気の温度は高く(約65℃)、周囲の岩場は白い変質物におおわれており、熱赤外画像でも白い部分の温度が所々高くなっているのを確認しました。前回、為八海岸の沿岸部で白色の変色水が湧昇しているのを確認しましたが、今回、そのような事象は認められませんでした。
- ・**島東部(離岸温泉跡)の状況**：島東部の離岸温泉跡では、噴気の高さは崖上から20m程度で、わずかな硫黄臭を確認しました。2011年11月、2012年3月及び前回(2012年5月)の現地調査で、隆起により海岸線が後退して砂浜が拡大したと考えられましたが、今回の調査では、地形に大きな変化は認められませんでした。ただし、湯だまりが海岸線と並行して横に伸びていることを確認しました。
- ・**阿蘇台陥没孔の状況**：島西部の阿蘇台陥没孔では、2012年3月及び5月の調査時と比較して水位はほとんど変わりませんでした。また、今回も同様に間欠的な熱泥水の噴出を確認しました。孔内から立ち上る噴気は、孔の上端から20m程度の高さに上がり、弱い硫黄臭を伴っていました。また、孔内の泥水の温度に特段の変化はありませんでした。
- ・**島西部(井戸ヶ浜)の状況**：井戸ヶ浜では所々変質物に覆われ、周囲より温度の高い¹⁾場所が確認されています。今回行った上空からの観測では、前回(2011年11月)と比較すると、地熱域の位置や大きさにはほとんど変化はありませんでした。しかし、海岸線の形は変化していました。「地熱域1、2、3」とともに、周囲の砂浜より表面温度が高く、「地熱域1、2」は噴気を確認することはできませんでしたが、表層の地中温度は、80～100℃でした。「地熱域3」では、高さ5～10m程度の噴気を確認し、変質物に覆われた地表面下から水の流れるような音がしたため、地下は空洞となっている可能性が高いと考えられます。
- ・**旧噴火口(通称：ミリオンダラーホール)の状況**：ミリオンダラーホールの噴出孔周辺の地形は、2012年3月の調査時とくらべ、あまり変化はみられませんでした。同行した海上自衛隊職員によると、2ヶ月程前に訪れたときに比べ、「噴出孔A」より道路側(西側)で新たに植生が枯死しているとのことでした。泥の付着はみられないので噴気によって枯死した可能性があります。また、「噴出孔C」は「噴出孔A」に向かって緩やかに傾斜しながらつながっていましたが、今回は逆に、AからCに向かって傾斜しているとのことでした。これは、「噴出孔A」付近に噴出物が堆積した可能性が考えられます。
- ・**摺鉢山の状況**：前回(2012年3月)の調査時とくらべ、地形等に特段の変化はみられませんでした。前回調査時は変質地帯の一部で弱い白色の噴気のみみられましたが、今回の調査では変質地帯のほぼ全面から噴気が立ち上り、硫黄臭を伴っているのを確認しました。「噴気孔1、2」の噴気温度は(前回)とほぼ変わりませんでした。
- ・**その他の地域の状況**：金剛岩、硫黄ヶ丘及び翁浜などその他の地域では、噴気や地熱、地形等の状況は、前回(2012年3月)の現地調査で確認された熱活動や地形と特段の変化は認められませんでした。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、2012年4月末に新たに噴気を確認された島北部や変色水がみられた北東沖、従来から小規模な噴火がみられていた島東部の海岸付近、島西部(井戸ヶ浜等)及び南東沖(翁浜沖)では

噴火に対する警戒が必要です。

福德岡ノ場 【噴火警報(周辺海域) 及び火山現象に関する海上警報】

海上自衛隊の協力により 9 日に上空から実施した観測では、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる湧出点付近において、幅約 200m、長さ約 300m の青白色の変色水を確認しました。

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福德岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生しています。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

阿蘇山 【火口予報(噴火警戒レベル 1、平常)】

噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が概ね火口縁上 200m で経過し、7 日は気象の影響で火口縁上 900m まで上がりました。湯だまり量は 9 割（7 月：8～9 割）で変化はありませんでした。湯だまりの表面温度は 57～61℃（7 月：58～66℃）でやや低下しました。湯だまりの中央付近で噴湯現象を確認しました。南側火口壁の温度は 241～249℃（7 月：213～250℃）で大きな変化はありませんでした。赤外熱映像装置による南側火口壁の温度分布には特段の変化はありませんでした。

孤立型微動および火山性地震はともにやや少ない状態で経過していますが、2012 年 2 月頃からわずかながら増加傾向を示しています。孤立型微動の月回数は 1,025 回（7 月：669 回）、火山性地震の月回数は 951 回（7 月：626 回）でした。火山性地震の震源は、中岳第一火口付近のごく浅いところに分布しました。継続時間の短い火山性微動が 2 回（7 月：なし）発生しました。火山性微動の継続時間の月合計は 1 分でした。

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

中岳第一火口の北西側火口縁にある観測点(CW2、CW3)では、2010 年 12 月頃から全磁力が増加しており、2011 年 6 月頃には全磁力の増加は停滞していましたが、再び増加傾向が認められます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火口内では土砂や火山灰の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

霧島山（新燃岳）【火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)】

新燃岳では、今期間、噴火は発生しませんでした(最後の爆発的噴火は 2011 年 3 月 1 日、噴火は 2011 年 9 月 7 日)。噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 100m 以下で経過しました。

30 日 14 時頃から 17 時頃にかけて、新燃岳の南西付近を震源とする振幅のやや大きな A 型地震が一時的に増加しました。地震増加時に、傾斜計及び GPS 連続観測では特段の変化なく、火山性微動も観測されませんでした。また、新燃岳火口直下を震源とする地震活動にも特段の変化はありませんでした。噴煙の状況は、天候不良のため観測できませんでした。火山性地震は 30 日に一時的に増加したものの、その他は 1 日あたり 0～2 回（8 月：37 回、7 月：17 回）で、少ない状態でした。火山性微動は観測されませんでした（7 月：なし）。

31 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の最大放出量は 1 日あたり 10 トンとごく少ない状態でした（前回 6 月：100 トン（平均値））。

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給に伴う地盤の伸びの傾向は、2011 年 12 月初め頃から鈍化しました。2012 年 1 月以降はほぼ停滞していましたが、「えびの」－「牧園」基線では 5 月頃から、「牧園」－「都城 2」では 6 月頃からわずかに縮みの傾向が見られます。新燃岳周辺の GPS 連続観測及び傾斜計では、30 日の A 型地震増加時も含めて火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

新燃岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

噴火警報や霧島山上空の風情報に留意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に留意してください。

桜島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)】

昭和火口では、活発な噴火活動が継続しました。噴火の回数は 59 回（7 月：76 回）でそのうち爆発

的噴火の回数は43回（7月：60回）でした。23日07時39分の爆発的噴火に伴って大きな噴石が3合目（昭和火口から1,300m～1,800m）まで達しました。大きな噴石が3合目まで達したのは7月7日以来です。8日18時02分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上2,800mまで上がりました。火砕流は、観測されませんでした。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を18～26日に時々観測しました。

南岳山頂火口では、噴火は発生しませんでした。

火山性地震は、少ない状態で経過しました。月回数は370回と7月（713回）に比べ減少しました。震源は主に南岳直下の海拔下3km付近に分布しました。噴火に伴う火山性微動が発生しており、月回数は270回（7月：473回）でした。継続時間の月合計は37時間54分で7月（56時間52分）に比べて減少しました。

6日、20日、22日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり2,600～3,300トン（7月：1,800～5,200トン）と多い状態で推移しました。

有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）では、2012年2月頃から山体の変動は停滞していましたが、8月はわずかに沈降しています。GPS連続観測では、2011年9月頃から桜島島内のわずかな伸びの傾向が続いていましたが、2012年2月頃から鈍化しています。また、国土地理院の地殻変動観測結果によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられます。

鹿児島地方気象台での観測では、月合計142g/m²（降灰日数14日）の降灰を観測しました。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の7月の総噴出量は52万トンでした。2012年7月末までの合計で453万トンと昨年1年間の総噴出量（445万トン）と同程度になっています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。白色の噴煙が、最高で火口縁上300mまで上がりました。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を28日に観測しました。

火山性地震の月回数は187回（7月：238回）と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした（7月：なし）。

GPS連続観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

御岳火口では、噴火は発生しませんでした（7月：なし）。噴煙は19日のみ観測され、高度は火口縁上300m（7月：最高400m）でした。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映2）を8～10日、12～14日、18～20日および24日に観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。A型地震の月回数は17回（7月：29回）でした。B型地震の月回数は39回（7月：123回）でした。火山性微動は観測されませんでした（7月：月合計38時間5分）。

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

御岳火口では、今期間噴火は発生しませんでした、長期にわたり噴火を繰り返しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

択捉焼山【噴火予報】

択捉焼山（標高1158m）で噴火が発生、25日07時00分の気象衛星（MTSAT-2）画像で噴煙を観測し、08時00分の衛星画像では海拔約4000mの高さに達しました。これに伴い、気象庁東京航空路火山灰情

報センターは 25 日 10 時 06 分に航空路火山灰情報を発表しました。その後、気象衛星画像で噴煙は観測されていません。

択捉島を訪れていた北海道大学によると、噴火活動は 15 日から始まったと考えられ、25～26 日の 2 日間で合わせて 4 回の噴火が確認されました。このうち 1 回は噴煙が海拔約 4000～5000m の高さにまで達しています。

(火山の順は活火山総覧(第3版)による)

資料１ 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成 24 年 9 月 9 日現在）

（１）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 9 月29 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17 日 噴火予報（平常） 2008年11月17 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年12月16 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	大雪山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年12月16 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 6 月 9 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	秋田焼山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年10月27 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	鳥海山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	蔵王山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	安達太良山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	那須岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
関東・中部地方	日光白根山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2009年 4 月10 日 噴火予報（レベル 1、平常）切替
	浅間山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2008年 8 月 8 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009年 2 月 1 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009年 2 月 3 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2009年 4 月 7 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2010年 4 月15 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	焼岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2008年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2009年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル 1、平常）	2007年12月 1 日 噴火予報（平常） 2011年 3 月31 日 噴火予報（レベル 1、平常）

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	神津島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年３月31日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	青ヶ島	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月１日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福德岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007年12月１日 噴火警報（周辺海域警戒）
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（平常）	2007年12月１日 噴火予報（平常）
	九重山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	噴火予報 （レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年５月16日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年６月20日 噴火予報（レベル１、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山（新燃岳）	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年８月22日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年３月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年４月16日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年５月６日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年１月26日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2011年１月31日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年２月１日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年３月22日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年６月26日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 噴火予報（レベル１、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年２月３日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年２月20日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年４月８日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年７月14日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年７月28日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年８月28日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年２月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年２月19日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年３月２日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月10日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年４月24日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年７月19日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2010年９月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2012年３月12日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2012年３月21日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年１月25日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年９月４日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年３月18日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年８月４日 噴火予報（レベル１、平常） 2009年９月27日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル１、平常） 2011年12月15日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2012年１月20日 噴火予報（レベル１、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月１日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月 1 日の噴火警報・噴火予報及び噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

（２）その他の活火山

以下の活火山（＊印を除く）では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。また、＊印の活火山では、活火山として選定された平成 23 年 6 月 7 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、いずれも火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山*、摩周、雄阿寒岳*、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方	高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、ア CANDANA 山
伊豆・小笠原諸島	利島、御蔵島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山